

フランス語と文化A

(French Language and Culture A)

担当教員

准教授 坂本 尚志
非常勤講師 山川 清太郎

科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等
外国語	1年次 前期	講義	1.5単位	選択

【概要】

フランス語は、フランスだけでなく世界36か国の公用語です。フランス語を日常的に使用する人口は2億2000万人にもものぼると言われています。18世紀以降、外交の世界ではフランス語が世界共通の言葉でした。現在も、フランス語は多くの国際機関の公用語として使用されています。文化の世界においても、フランス語圏の国々で生み出される芸術や流行は、世界中で愛されています。英語全盛の現在も、フランス語の重要性は決してなくなりはしません。この授業では、フランス語の基礎を学ぶとともに、映像、音楽などの多様な教材を用いて、世界に広がるフランス語圏についての理解を深めることを目指しています。新しい言語を学ぶことは今までとは異なった世界の見方を知ることでもあります。フランス語の基礎をしっかりと学びながら、フランス語圏という未知の世界と一緒に発見していきましょう。

【授業の一般目標】

聴く、話す、読む、書くという活動を通じてフランス語の基礎文法を習得するとともに、シャドウイング、ロールプレイなどの手法も用いつつ、フランス語でのコミュニケーションの初歩を学ぶ。また、様々な分野についての映像教材を通してフランス及びフランス語圏についてより深く理解する。

【準備学習(予習・復習)】

予習：次回授業で学習する範囲の新出単語の意味などを辞書を使って調べておくこと。また、文法事項についても事前に目を通しておくこと。

復習：教科書・ノートを使って授業内容を振り返り、不明な点があればできるだけ早く質問すること。また、練習問題については、間違えた箇所を重点的に見直し、なぜ間違ったのか、どのような知識が不足しているかを理解し、適切に対処すること。

仏和辞典は必ず購入すること（電子辞書、辞書アプリの使用も可。インターネット上の無料の辞書サイトには信頼性に欠けるものや用例が不十分なものがあるので、使用を認めない）。

準備学習の所要時間は各回の内容や時期によって異なるので、一律の時間を決めることはしないが、平均すると60分程度を必要とする。

【学習項目・学生の到達目標】

No	学習項目	担当教員	学生の到達目標
1	世界の中のフランス語	坂本 山川	フランス語圏に含まれる国々やフランス語の特徴について説明できる。
2	Le?on 0-1	坂本 山川	フランス語の発音の基礎、主語人称代名詞、名詞の性・数、動詞について理解し、活用できる。
3	Le?on 0-2	坂本 山川	基本会話を理解し、活用できる。また、練習問題を通じて知識の定着を振り返ることができる。
4	Le?on 1-1	坂本 山川	基本会話を理解し、活用できる。不定冠詞と定冠詞の違いならびに動詞?tre, avoirの直説法現在活用等の文法事項を理解し、活用できる。
5	Le?on 1-2	坂本 山川	前週の内容を振り返った上で、練習問題で知識の定着を確認することができる。
6	Le?on 2-1	坂本 山川	基本会話を理解し、活用できる。第1群規則動詞の直説法現在の活用、疑問文、否定文、部分冠詞等の文法事項を理解し、活用できる。
7	Le?on 2-2	坂本 山川	前週の内容を振り返った上で、練習問題で知識の定着を確認することができる。
8	映像でみるフランス(1)	坂本 山川	映像教材を通して、フランス文化への理解を深める
9	Le?on 3-1	坂本 山川	基本会話を理解し、活用できる。aller, venirの直説法現在の活用、定冠詞と前置詞の縮約等の文法事項を理解し、活用できる。
10	Le?on 3-1	坂本	前週の内容を振り返った上で、練習問題で知識の定着を確認することができる。

		山川	
11	Le?on 3-2	坂本 山川	前週、前々週の内容を振り返った上で、練習問題で知識の定着を確認することができる。
12	Plus [1]	坂本 山川	数に関する表現、季節、曜日、月などの表現を理解し、練習問題等を通じて知識の定着を確認することができる。
13	Plus [1]	坂本 山川	前週の内容を振り返った上で、練習問題で知識の定着を確認することができる。
14	映像でみるフランス(2)	坂本 山川	映像教材を通して、フランス文化への理解を深める。
15	総括・まとめ		

	(書名)	(著者・编者)	(発行所)
教科書	新・フェリタシオン	久松健一	駿河台出版社
参考書	仏検対策5級問題集	小倉博史 他著	白水社
	フランス語をはじめよう	小倉博史 著	すばる舎
	ロペール・クレ仏和辞典	西村牧夫 他編訳	駿河台出版社

【成績評価方法・基準】

定期試験70%、平常点（授業への参加、課題提出状況等）30%

【評価のフィードバック】

成績評価の講評については、個別に対応する。